

第2回みみ祭5月委員会報告

日時：平成21年5月2日（土）夜7：00から

場所：大幸補聴器

参加者：石川、鳥居、土田、小林、対馬辰彦、対馬美香、八鳥匡宏、八鳥チヨ、阿部、浅井、加藤、藤田、山田幸、山田恭子

議題：1. 第1回目の会計報告の件

会計係の石川さんより、会計資料を作ってもらいました。それを監査役の小林さんへ渡し、第1回みみ祭の会計手続きを済ませることにしました。

2. イベントプログラムの件（先月の議題の続き）

聴導犬講演について、変更しなくてはいけなくなりました。4月29日に「講演キャンセル」のメールが届きました。理由は、以下のとおりです。

「みみ祭り実行委員会

山田 恭子 様

お世話になっております。

トヨタショックや株等の社会経済状況が大変な時期に当協会の運営も厳しくなり、生活に余裕のあるボランティアさんが一人もいない状況で活動を広げる事が困難になっています。

理事長兼トレーナー 大西が管理している為、遠方での活動が出来なくなりました。

誠に申し訳ございませんが、引き受けました講演をキャンセルさせて下さい。

実行委員会の皆様、期待に添えず、誠に申し訳なく思っています。

深くお詫び申し上げます。」

（山田恭子） これに伴い、代わりの演目を考えないといけなくなりました。

今日は、みんなで考えてもらいたいです。

（鳥居）難聴者の理解のためにパネルディスカッションをやって欲しいと思う。例えば、テーマを決めて（仮に、「発音の問題や、いい間違いについて」としたら）耳鼻科の先生や、聾学校の先生や、言語聴覚士の先生や、聴覚障害者の代表や、福祉の人など、専門家に集まってもらって、それぞれの立場で聴覚障害者が困っていることをについて、話し合ってもらって、討論会みたいにしてもらうのはどうか？自分たちは、一人ずつの先生に、別々に指導を受けたことはあるけれども、聴覚障害者がみんな同じ指導や教育を受けたわけではないので、いろいろな立場の専門家がいっぺんに集まって、どう考えて聴覚障害者のためにやってくれているのか、意見を聞いてみたいと思った。どうしてかというと、こういう専門家は、子どもの時はよくお世話になって、厳し

く指導してくれたけれど、大人になったら、誰も指導してくれる人がいなくなる。変な発音（「サ」「タ」「シ」「チ」「ス」「ツ」など）をしたり、いい間違い（「村のしきたり」「村のしたきり（舌切り）」「村のしりきた（尻来た）」）というような間違い）を注意してくれる人がいないので、社会の中で恥をかいたり、何回もいい間違いをしていると、相手にされなくなる可能性もある。そういう経験があるので、専門家の考えを聞いてみたいと思った。みんな、この考えはどうでしょうか？

（小林、阿部、山田、加藤、石川）

- ・ みみ祭だから、お祭り騒ぎの中で、ちょっと重いテーマではないですか？ 内容が重いと、お客様があんまり来ないかも？
- ・ そういうことなら、専門家のパネルディスカッションではなく、難聴者本人が発言する「難聴者の主張」ということになるのでは？
- ・ 「難聴者の主張」という言い方は、固い言い方だから、「僕たちの困っていること、みんなに協力してもらいたいこと」みたいな言い方にして、健聴者に聞いてもらえるような工夫をしたら良いのでは？
- ・ ・・・・・・・・など、いろいろと意見がでました。そこで、、、

（山田）対馬さん夫婦、八鳥さん夫婦は、この意見をどう思いますか？ 鳥居君と同じような経験とか、感じたことはありますか？

（八鳥）会社では、健聴者の視線に気を使っています。私たちは、聞こえないから、人を呼ぶ時は肩をたたきます。それから、視線を合わせて合図します。そういうことが、健聴者には分かってもらえないで、「セクハラ」とか、「気が有るのではないか？」（特別な感情）とか、いろいろと誤解されます。だから、健聴者にどう思われているか、いつも気にしすぎて、ストレスが溜まります。

（加藤）では、アイデアがあります。実は、知り合いに劇団の人がいます。だから、今、聞いたような経験談をもとに、劇団の人にショートコントにしてもらつて、再現したらどうでしょうか？ 劇にすれば、発言するだけよりもわかりやすいし、健聴者も興味を持つてくれるのでは？

（全員）それは、いいアイデア！

（山田）では、1回のみみ祭で協力してくれた、三重難聴協会や、ろうあ協会の人にも経験談や健聴者に協力して欲しいことなど、募集したらどうですか？ その中で、劇にするものを選んだら？

【結論】「対馬さん、八鳥さん両ご夫婦とお友達など、聴覚障害者ご本人が演技することになり、健聴者の役や影のナレーションなどは、他の健聴のスタッフや又は出演希望の人で対応することになりました。こうすることで、聞こえる人も聞こえない人も、完全参加型のイベントを目指します。」

* 聴導犬の代わりの講演については、本日昼間のバーベキューのときに来ていた、

岩永仁美さんへも相談しました。そして、その場で、知り合いの難聴のプロカメラマンへメール連絡をしてくれて、その人から了解をもらいました。の話し合い（劇での聴覚障害者の理解について）ができたので、プロのカメラマンの講演は、もう、お断りすることになりました。

岩永さんへは、お手数をかけてしまったので、報告とお礼をしておきます。でも、ロビーでの作品展などできるかもしれない、これからも連絡が取れるようにしておきます。

藤田さんのピアノについて、いろいろな理由があり、「来年の参加はできない」方向の意見が出ていましたが、ご本人に参加するかどうか、正式に確認しました。

藤田さんより、参加する返事をもらいました。それについては、劇のBGMの担当と、読み聞かせピアノで「ピーターパン」をやろうと思う。「ピーターパン」は、はなりちゃんにも妖精の役で手伝ってもらいたい。随分大変になると思うけど、がんばります。

「桑名耳おんど」の作曲状況について、土田君より中間報告をしてもらいました。

作曲のパソコンソフトを買いました。阿部さんと相談しながら、がんばっていますが、できあがるのはまだまだ先のことですよ。マツケンサンバみたいに明るく元気な曲にしたいと思っています。

鳥居君より新発表がありました。

土田君が「桑名耳おんど」を作って盛り上げてくれるので、僕は、子ども御みこしを作つて盛り上げようと思います。それについては、美濃祭りのときの「花みこし」をまねして作ろうと思います。だから、4月29日に美濃市までみんな（土田、山田2人も一緒）で出かけて、作り方を習つてきました。

山田より、「健康体操教室」を引き受けてくれるところを見つけました。

前回のときに、加藤さんから、聴覚障害者でスポーツクラブへ通いたい人がいたけれども、「緊急事態のときに対応できないと責任問題になるから」という理由で、スポーツクラブへ入会できなかつた人がいた、・・・・という話を聞いていました。そして、鳥居君から「健康は、健聴者も聴覚障害者もみんなにとって大切なことや」という意見もあったので、「体操教室」を引き受けてくれる人を探してみました。そしたら、「カーブス」という、女性専門のスポーツクラブのインストラクターが引き受けてくれました。

新海さん（今回は欠席）より、4月の委員会で提案した落語の件について、報告がありました。

愛知教育大学の落語研究会へ問い合わせてみたけれども、断られたので、今度は三重大学へ問い合わせています。6月の委員会のときに、また、状況をお知らせします。

そして、耳料理のことですが、都合が合えば、6月か7月の委員会のときに、料理の試食を持っていきたいと考えています。

新海さんは、元イタリア料理のシェフです。だから、イタリアンの感じで料理をしてくれるようです。

又、メールで連絡があり、新しいホームページを作ってくれましたので、アドレスをご紹介します。

<http://mimimaturi.aikotoba.jp/>

委員会や、視察のたび、写真を 1 枚以上撮るようにしますので、準備の状況をアップしていったらどうでしょうか？・・・・と、山田と新海さんで相談しました。

飯田さん（今回欠席）より、自分の子どもが中学生だけれども、子どもの意見によると、「中学生や高校生が参加できるプログラムがあれば、お友達を誘って見に行きたい」という意見だったので、来年は、そういう内容をできたらいいなあ。。。でも、大人が考えることと、中学生や高校生が希望することは、違うと思うので、本人たちに直接意見を言わせたいと思う。

都合が合うときに、お子さんにも委員会に来てもらって、意見を聞きたいと思います。

3 . 事業費について

今後は、お金の管理は、みみ祭実行委員会で通帳をつくり、集まったお金の管理をします。

4 . 本日、新メンバーが加わりましたので、ご紹介します。

八鳥さん夫婦、チヨさんと、匡宏さんです。お二人とも、ろう者です。基本的には声を出さずに手話でお話をしますが、奥さんのチヨさんは、声を出してのおしゃべりも得意です。

対馬さん夫婦、美香さんと、辰彦さんです。ダンナさんは、東員町の出身で、ご実家は藤田さんのお家のご近所でした。ハキハキと声を出してのおしゃべりと、手話をなさいます。奥さんは、今は専業主婦なので、なかなか声を出して話す機会が少なくて、最近は、声を出さずに手話で話すことが多いそうです。

4 人とも聴覚障害者の団体などに入っていないので、普段は、情報に乏しく、お友達も限られているそうです。生活の中に、楽しいことを取り入れて、ストレス発散をしたかったそうです。今日、バーベキューとみみ祭の委員会にはじめて参加してみて、とても楽しかったので、これからも参加したいそうです。手話通訳の加藤さんと浅井さん、出番が増えますが、宜しくお願ひします。他の健聴のメンバーの方も、加藤さんと浅井さんを頼りに、宜しくお願ひします。

【番外編～会議中に言っていたそれぞれの感想をまとめてみると～】

* 今日の委員会は、聴導犬のキャンセルと、突然の新メンバー参加により、思わぬ

いい方向に進みました。つまり、鳥居君からの「聴覚障害者に対する理解」についての提案からはじまり、八鳥さん、対馬さんからもこれについて発言がありました。そこへ他の全員の人が意見を言って、その結果、新しいアイデアが生まれました。健聴者も聴覚障害者も活発に意見交換ができる、とても充実した委員会になったと思います。

- * 聴覚障害者といっても、藤田さん、土田君、鳥居君のように声を出してはっきり発音する人と、今日から参加してもらった八鳥さん、対馬さん両夫婦のように、声を出さずに手話だけでお話しされる人がいることがわかりました。このことは、普段、聴覚障害者とあまり接することがない健聴者からすれば、とてもショッキングです。学校の教育とか、文化の考え方でこんなに違うなんて・・・・・・健聴者が聴覚障害者への理解をするのに、大変参考になる委員会でした。